下館税務署管内租税教育推進協議会会長賞

税金のありがたさ

茨城県立下館第一高等学校
一年　島田　望羽

私は今、日本に生まれ、国民の一員でいられる事にとても感謝している。

昨年九月、突然母の実家を襲った常総市鬼怒川の決壊により、高齢の祖母は叔母と一緒に体育館に避難した。一瞬にして平和な街が壊れてしまった。被害は膨大なもので、命を奪われてしまった方、家が流されてしまった方、大切なペットが流されて行方不明になってしまった方もいる。道路は断裂し、稲刈り前の田園は泥が乾き、あたり一面グレー一色というとても異様な光景だった。ライフラインの復旧にも数日かかったため、祖母はその数日を避難所で過ごした。しかし、避難所には沢山の救援物資、近隣の企業からの援助があり何も困らなかったそうだ。高齢の祖母を気づかってくれトイレに近い場所に寝る場所を作ってくれたり、市役所職員の方が常に声をかけ、血圧を測ってくれたりととても親切にして下さったと感謝している。このような被害から今までの生活に戻る事ができるのかと不安で一杯だったが、近隣の高校生や大学生を始めとし、全国から沢山のボランティアの方々がお手伝いをして下さり、消防、警察、自衛隊の方々の力を借り、驚くような速さで復旧工事が進んだ。

被害からもうすぐ一年が過ぎようとしている。一見、元の状態に戻ったように見える街も人の心も今だ傷は癒えていない。大手スーパーが廃業したり、農業をやめてしまったりした方もいる。濁流で塀が倒れたままの家もある。床下に石灰を撒いてもらったが、数年後にはカビが発生するのではないかと多くの不安を抱えている方もいる。

今まで自然災害のニュースを、大変だなぁと、漠然とみていた私も、今回母の実母が被災し、日本中の方々に助けられとても感謝すると共に、日本は思いやり溢れるすばらしい国だと実感した。今回農地関連の災害復旧費用は約二十五億三千万円との事だ。しかし、国の支援や県の財政支援などを受け、個人負担は求めないで済むらしい。日々の生活と、自宅などの復旧で費用がかかってしまうためとてもありがたい事だと思う。

今の私が出来る事は何か。それは、今年の三月まで義務教育で学ばせて頂いた事、現在は就学支援金を頂き授業料無償で学ばせて頂いている事をあたりまえと思わず、心から感謝すること。さらに、精一杯勉強し、希望の職業につけるように努力することだと思う。そして、社会人になった時、今まで受けた恩恵を税金を納付する事でお返しし、他人の役に立つ人になりたいと思う。